

が出土し、蒲御厨に属する長田村の範囲内にあたることが推定されている。第五次調査では、遺跡の北東部に相当する約二七〇㎡が対象となった。

過去の調査と同様、弥生時代の遺構が多数確認できたが、破壊を免れた中世の

静岡・山^{やま}の^{かみ}神遺跡

- | | | |
|---|---------------|-----------------------|
| 1 | 所在地 | 静岡県浜松市和田町 |
| 2 | 調査期間 | 第五次調査 二〇〇〇年(平12)一月～二月 |
| 3 | 発掘機関 | (財)浜松市文化協会・浜松市博物館 |
| 4 | 調査担当者 | 鈴木一有 |
| 5 | 遺跡の種類 | 集落跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 弥生時代後期、一二世紀～一三世紀 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

山の神遺跡は弥生時代後期と一二世紀～一三世紀頃を中心とした集落遺跡である。第一次調査において「長田」と記された墨書土器

遺構も僅かながら確認できた。中世にかかわる検出遺構は、掘立柱建物と井戸である。

木簡は一点、井戸から出土した。木簡が出土した井戸（SE〇二）は井戸枠を持たない、いわゆる素掘りの形態であり、直径約二m、深さ七〇cmを測る。井戸から同時代と考えられる土器が出土せず、明確に木簡の年代を決定する材料がない。周辺において検出される中世の井戸と形態や埋土が似ることから、木簡の年代を一二世紀―一三世紀頃と推定している。

8 木簡の釈文・内容

- (1)
- | | |
|--------------------------|-----|
| ・ | ・ |
| 「以」 | 「以」 |
| <input type="checkbox"/> | 今 |
| <input type="checkbox"/> | 明 |
| <input type="checkbox"/> | 日 |
| <input type="checkbox"/> | 力 |
| <input type="checkbox"/> | 物 |
| <input type="checkbox"/> | 方 |
| ＜ | ＜ |

184×28×8 032

木簡は上端を山形に整え、下端に切り込みが施される。表裏に墨書が認められる。表裏とも同じ文字が記されていると考えられるが、下端の一文字に疑問が残る。最後の二文字が「物忌」を示す可能性はあるが、確定的ではない。

(鈴木一有)

(鈴木一有)



(表)